

(別記)

6 年度山梨市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積（1275ha）に占める主食用米面積（10.0ha）の割合が約 0.7% で、転作作物に占める果樹の面積が多く、担い手への集積が進んでいる。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付に転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られる中、水稻作付面積の維持が課題となっている

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

農業者の所得向上や水田農業の発展を図るため、適地適作を推進し野菜・花きの生産促進を行い、収益力の向上に取り組んでいく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

果樹栽培が盛んな地なため、水田での果樹栽培といった畑地化の促進を行う。水田は良好な状況を維持し、現状の面積維持を図る。

4 作物ごとの取組方針等

市内の約 124ha の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

（１）主食用米

売れる米作りの徹底によって米の主産地としての地位を確保する。

また、前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。

（２）備蓄米

（３）非主食用米

ア 飼料用米

イ 米粉用米

ウ 新市場開拓用米

エ WCS 用稲

オ 加工用米

（４）麦、大豆、飼料作物

産地交付金を活用しつつ、農地の利用集積や低コスト生産体制を強化し、生産を維持・拡大を進めていき、高品質・安定生産技術の普及による作付面積の拡大を推進する。

（５）そば、なたね

（６）地力増進作物

（７）高収益作物

産地交付金を活用しつつ、農地の利用集積や低コスト生産体制を支援し、生産の維持・拡大を図る。また、高品質・安定生産技術の普及等による作付面積の拡大を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位：
ha)

作物等		前年度作付面積 等	当年度の 作付予定面積等		<u>令和8年度</u> の 作付目標面積等	
			うち 二毛作	うち 二毛作	うち 二毛作	うち 二毛作
主食用米		9.4		9.4	9.4	
備蓄米						
飼料用米						
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS 用稲						
加工用米						
麦						
大豆		1		1	1	
飼料作物						
	・子実用とうもろこし					
そば						
なたね						
地力増進作物						
高収益作物		100.2		115.6	120	
	・野菜	6.7		7	8	
	・花き・花木	0.5		2	3	
	・果樹	93		106.6	108	
	・その他の高収益作物					
その他						
	・〇〇					
畑地化						